

民報 ゆうばり

「生きるに向き合う博物館」へ

石炭博物館4/28 リニューアルオープン



＝ゆうばり再生市民会議＝ 夕張の歴史と文化を学ぶ会 共催で博物館学習会を開催

3月25日、はまなす会館において、リニューアルオープン目前の石炭博物館のこれからについて、学習会が開催され、約50人が参加しました。講師は4月から石炭博物館の指定管理者に決まったNPO法人炭鉱の記憶推進事業団の酒井裕司さんと原田唯史さんです。



炭鉱の記憶推進事業団の酒井さん・原田さん

◆ ◆ ◆
主催者を代表して、ゆうばり再生市民会議の澤井俊和代表が「今年28日のリニューアルオープンを前にして、市民がどんなふうに関わりを持てる施設になるのか、今日のお話を楽しみにしてきまして」とあいさつしました。

まず最初に、現在、石炭博物館開設準備室長の原田さんから3年間地域おこし協力隊として関わってきたこれまでの経緯や、元炭鉱マンの方たちから、聞き取り調査を続けていること、「今後も市民とともに活動を続けていきたい」との思いなどが話されました。

「地域おこし協力隊活動」で市民とともに

共催者となつて「夕張の歴史と文化を学ぶ会」と両方の会に参加しているくまがい桂子市議が司会を担当しました。



「原点に回帰」皆さんの協力を

次に、常務理事の酒井さんから、このNPO自体が夕張市石炭博物館存続のために2017年に設立された組織であること、10年の活動を経て石炭博物館の運営にあたることは、「原点に回帰」すること。「弱い活動基盤であり、皆さんの協力が不可欠です。限られた財源の中で整備することができた貴重な博物館を、市内と市外、教育と観光、過去と未来といった様々な要素を乗り越えた新たな価値を生み出す拠点として、運営したい」と決意が語られました。

「生きるに向き合う博物館」が基本

さらに、「改修の基本理念は『生きるに向き合う博物館』です。炭鉱とともにあった人生を記録し、表現する場として、市民の皆さんとのかわりが最も重要。

SL館、活用を！ 強制連行の歴史を

今後の夕張市再生にとって、博物館で学ぶ歴史的経緯の認識が基礎となり、博物館から得た知識が原動力となるようしっかりと運営したい」等のお話がありました。

坑口案内や丁未露頭炭の活用を

参加者からは、「JRの廃線が決まったが、かつて石炭を運搬したSLを所蔵だけでなく、ぜひ公開してほしい」「戦前、強制連行された炭鉱で働かされていた朝鮮人労働者の事も、ぜひ取り上げてもらいたい」

「フリースペースの有効活用に期待したい。また、坑口の案内や丁未露頭炭の体験など、フィールドワークも是非」

フリースペースやトイレ等も自由に

市民からの様々な

意見に対し、「実現に向けて、できるだけ皆さんと力を合わせて取り組みたい。1階のフリースペースやトイレも自由に使用してもらって、博物館周辺での自然、昆虫や生物も含めてフィールドワークの企画・運営を市民といっしょにやっていきたい」とのお話でした。

最後に、夕張の歴史と文化を学ぶ会の上木和正代表から「待ちに待った博物館のリニューアルが終わり、もっとも関わり深い『炭鉱の記憶推進事業団』が運営することになった。市民の宝の博物館を、みんなで支え、活用していこう」と締めくくりました。



夕張市文化協会 三賞授与・祝賀会開催

3月24日夕張市文化協会は三賞授与・祝賀会をホテル・シユーパロで開催しました。

この三賞授与に当たっては、2月9日三賞選考委員会の答申に基づき、3月9日理事会で決定しました。
三賞は以下の通り授与されました。

平成29年度

- 文化協会賞
三菱大夕張鉄道保存会 代表 奥山道紀
- 市長奨励賞
大正琴サークル 代表 古城サクエ
- 教育長奨励賞
ルピナスの会 代表 吉田八重子
- 文化協会奨励賞
キルトサークルゆうばろ 代表 橋本恭子



くずさんの 夕張歴史散歩(85)

明治維新と錦旗 2

薩摩打つべしの「討薩の表」が発せられると、一万五千の幕府軍は大坂城を出て京に進みます。これに対し薩長連合は、五千の勢力で鳥羽と伏見を固め迎え撃ちます。彼等の勢力は判然としていて、圧倒的な戦力のもとで薩長連合軍は苦戦します。開戦初日（一月三日夕）、伏見の町は瞬く間に炎上します。

ひるがえる錦の御旗

翌日、防戦一方の薩摩の本陣東寺に二旗の幟が翻ります。長さ四・二尺、幅九十寸、赤地に雲や九竜、桐、鳳凰などが織り込まれた色鮮やかなものといえます。これが錦の御旗と呼ばれる天皇の旗印でした。

錦旗の威力

テレビの水戸黄門ではないが「この紋どころが目に入らぬか！」の一喝で通っていた幕府の権威も「菊は栄える葵は枯れる」と唄われたように、その支配体制は（民衆一揆の頻発も含め）急速に地に落ちていました。
ここに現れた錦旗の威力は想像以上でした。この旗印に弓引く者は（銃を撃つ者は）完全に「賊軍」となりました。今やたまたかいは「天皇」のためにと、大義名分が明確になったのです。

天皇の権威をめぐって

戊辰戦争の意味したものは、いわば幕府に代わる権威の象徴としての天皇を、どちらが握るかの争いでした。
ここに天皇主権の体制が現れます。これが明治維新の本質ではなかったでしょうか。

注 錦旗は、皇室伝来の宝物でもありません。前年の十月に岩倉具視が国学者の玉松操にデザインさせて、薩摩の大久保利道と長州の品川弥二郎に西陣の帯地を使って作らせたものといえます。



紙智子「国会かけ歩記」
参議院議員
紙 智子

一次産業を希望の持てる分野に

「まさか今日、林業の話を開けるなんて思っていなかったのに、林業の話が聞けて、うれしかった」。先日開かれた岩見沢市での女性の集いに参加していた農業高校生の感想です。彼は農業高校生の三年生ですが、誘われて女性の集いに参加したといいます。

「僕は森林科学部に所属して学んでいますが、いま北海道にある木の多くはトドマツ、カラマツとか価格が安い木が多く、赤字になるから生育に手が入れられず、山が荒れているんです」と語りました。思いもよらず、林業についての高校生からの感想に、会場から「へーっ！」と声があがります。

私は、安倍政権の暴走に国民の怒りが渦巻き大きく揺れている国会の様子や国民の声を聞かず総理が主導する官邸農政に批判が高まっていること、昨年は突然、種子法の廃止が強行されたことや、今年は一森林経営管理法案」が出されたことを紹介したのです。

「そこに反応するのか」と予想外の感想、しかも未来を担う高校生が、胸を痛めているのかと私のほうが嬉しくなってしまう。今は、全国的に農業高校や水産高校も少なくなりました。学校でどんな授業が行われているのだろうと、改めて見てみたくなりました。

農業、林業、水産業など一次産業の生産基盤の弱体化進む中、日本の将来を見据え、学んだこと生かし、希望の持てる産業として、若い担い手が魅力を感じられる分野にしたいものです。「そだねー」が広がるように。